

武蔵塗料、グローバル展開を加速

—2021年1月に中国とベトナムで新工場稼働—

武蔵塗料は、中長期にわたるグローバル事業の成長を実現するため、重点市場における事業リスクへの対応と成長市場での展開強化を軸とする施策を実施する。この一環として、2021年1月に重慶市とベトナム北部のバクニン省で新工場を立ち上げる。

中国第4工場を建設

中国の新工場は天津、蘇州、中山に次ぐ中国4番目の生産拠点で、重慶阿麗斯科関西塗料の全株式を2020年7月に取得し、「重慶武蔵塗料」と商号を変更して設立。同社が中国で生産拠点を新設するのは16年ぶりで、年産能力は1万トンとグループが世界で展開する全11生産拠点中、最大規模となる。

中国は、あらゆる事業に対する環境規制が強化されており、塗料業界もこの影響を免れることが出来ず、規制への対応が喫緊の課題となっている。また、重慶市は中国有数の産業集積地で自動車やITを含む多様な客先が事業を展開している。こうしたなか、新工場は環境配慮型製品の強化を図るとともに、新規顧客の開拓も行う。

環境規制に対応

近年、中国はあらゆる産業において環境規制が厳しさを増しており、グループの既存工場も大気汚染抑制の観点から生産停止命令を受け、安定供給を継続する面でのリスクが増大している。新工場は国家級の化学工業園区に位置しており、大気汚染

により既存工場が生産停止になった際のバックアップ拠点として機能することが可能。

また、環境規制対応だけでなく、省人化・自動化による生産性の向上をベースに、既存工場が現在個別に生産している水系塗料を含む樹脂用塗料の半製品を一括して生産し、各工場に供給する。

一方、中国市場では今後、水系塗料を中心とした環境配慮型製品の拡充が益々求められる。この要請に応えるため、水系塗料をはじめ各種VOC低減塗料の開発を強化し、性能と陣容の強化を図る。新工場はこれら環境配慮型製品の生産の拡大に貢献するための中心拠点としての役割も担う。

重慶市の立地特性に注目

さらに、中国製造業の一大生産拠点である重慶市の立地を生かし、同地に事業を展開する顧客への迅速な対応を図る。中国西南地域に位置する重慶市にこれまで事業拠点がなく、既存工場のある天津や中山から対応せざるを



中国の新工場

得なかったが、新工場の完成後、この課題を解決できるようになる。

グループの主要顧客である自動車業界において、重慶市は中国における最重点地域の一つ。2019年の同市の自動車生産台数は138万台で、地域別生産シェア9.8%に達している。同市には従来から軍需産業や二輪車産業の基盤が存在したことで、長安汽車、長安フォード、北京現代などの有力自動車関連企業が事業を展開している。また、近隣の四川省には一汽トヨタをはじめフォルクスワーゲンやプジョー・シトロエンなどの外資系自動車メーカーが進出、自動車産業が急成長している。

これら自動車メーカーだけでな

く、同市では2019年に世界のノートパソコンの40%を生産し、6年連続で世界首位となったほか、携帯電話の生産額も1,000億円を超え、生産台数は世界の1割を占めた。また、通信キャリアやブランド企業、OEM企業、関連会社などを一体化したスマート端末産業チェーンが形成されているほか、プリンターメーカーも進出しており、幅広い分野の顧客の要望に迅速に対応すべく、生産・供給体制を整備する。



ベトナムの新工場

ベトナム第2工場を建設

ベトナムの新工場はドンナイ省のホーチミン工場に次ぐ、同国2番目の生産拠点で、年産能力は1,700トン。ASEANエリアで同一国内に2つの工場を持つのはベトナムが初めて。

成長市場である東南アジアでもベトナム、特にハノイには海外の多数のメーカーが生産拠点を構えている。また、中国からの生産拠点移管の流れも加速しているため、ハノイ地区に生産拠点を建設。新工場は重慶市の新工場と同様、環境配慮型製品の強化を図り、現地の環境保護に貢献するとともに、ブランド力の強化を図る。運営は全額出資会社の「ベトナム武蔵塗料」が担当する。

非日系案件を獲得

ベトナム北部は中国と隣接しており、近年中国からの案件移管なども増

加傾向にある。中国の環境規制強化など厳しい状況が続いており、各顧客の近隣諸国への進出や生産移管なども増加傾向にあり、ベトナム北部で案件受入可能な体制を整えていく。

また、同社は2011年よりベトナム南部のドンナイ省でオペレーションを開始し、直近5年間で生産量は2.5倍になった。近年は北部エリアからの受注も増えており、生産体制の強化と顧客の近くでサポートを出来る環境が必要となっていた。

チャイナプラスワンに対応

さらに、新工場の建設を機に非日系顧客比率をアップさせる。ベトナム武蔵塗料はホーチミン市内より車で1時間の距離に位置するアマタシティービエンホア工業団地で、自動車、家電製品、AV・OA機器、携帯電話、パソコン、ゲーム機等に使用されるプラスチック・金属向け塗料を製造・販売している。同社の日系顧客比率は現在

90%となっているが、日系企業限定のビジネスでは今後、大きな成長が望めないため、ベトナム最大手のビンググループや韓国のサムスン電子やLG電子などの大型案件獲得を目指す。

バクニン省のイエンフォン工業団地にはサムスン関連のサプライヤーが集約しており、同じくベトナム北部のハイフォン市ではLGグループが2,200億円以上の投資を行い、スマートフォンの生産を増強している。新工場はイエンフォン工業団地およびハイフォン市へのアクセスが良好なうえ、韓国系企業に対応するため、韓国法人からの出向者を常駐させる予定。

武蔵塗料は、1958年の創業以来、多様な素材を混ぜる技術によって顧客のニーズにきめ細かく応える塗料を開発・提供。家電から通信機器、そして自動車へとその用途を広げてきた。また、1997年から海外への展開も積極的に進めており、現在では世界10カ国(日本、韓国、中国、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、インド、ハンガリー、米国)、14拠点をネットワークし、グローバルで同一品質の塗料を開発、生産が可能な体制を実現している。塗料業界をリードするペインティングカンパニーグループで、世界のどこであっても徹底した顧客満足の追究というポリシーと最先端技術で、日本と変わらない商品を世界中で提供している。

■武蔵塗料のアジアでの増産投資

中国	重慶武蔵塗料 (設)2020/7 (比)武蔵塗料100% (所)重慶市	<新工場> (稼)2021/1、(規)敷地面積:6万㎡、(能)1万トン/年 天津、蘇州、中山に次ぐ中国4番目の生産拠点。中国で生産拠点を新設するのは16年ぶり
ベトナム	ベトナム武蔵塗料 (設)2008/1 (比)武蔵塗料100% (所)ドンナイ省	<新工場> (稼)2021/1、(規)敷地面積:1.5万㎡、(生)1,700トン/年、(所)バクニン省(QueVo2工業団地) ドンナイ省のホーチミン工場に次ぐ、同国2番目の生産拠点。ASEANエリアで同一国内に2つの工場を持つのはベトナムが初めて